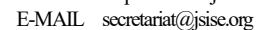


教育システム情報学会
ニュース・レター No.256





第 51 回 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

2026 年度全国大会の開催日・開催場所が決まりました。

<https://taikai2026.jsise.org/>

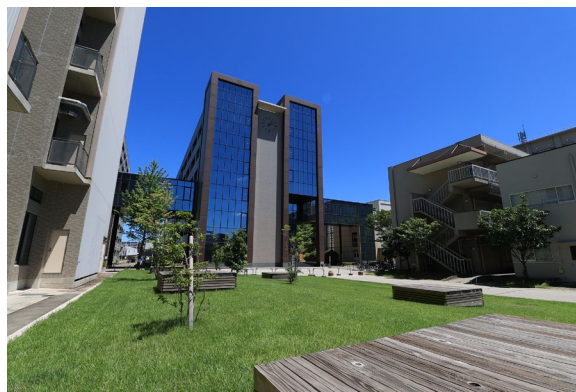
開催日（予定）： 2026 年 9 月 12 日（土）～ 9 月 14 日（月）

開催場所（予定）： 徳島大学（常三島キャンパス）

<https://www.tokushima-u.ac.jp/>

是非ご発表・ご参加をご検討ください。大会の詳細は、随時 Web サイト等でご案内いたします。

■ 会場外観



提供：徳島大学理工学部

■ アクセス

https://www.tokushima-u.ac.jp/access/shinkura_josanjima.html

<徳島駅から徳島大学まで>

- 徳島バス 徳島駅前から「中央循環線（左回り）」・「鍛冶屋原線（住吉経由）」・「島田石橋線」・「鳴門線」・「川内循環線（左回り）」・「中央市場線」のいずれかに乗車 ⇒ 「助任橋・徳島大学前」下車 ⇒ 徒歩 5 分
- 徳島市営バス 徳島駅前から「東部循環線（右回り）」に乗車 ⇒ 「助任橋・徳島大学前」下車 ⇒ 徒歩 5 分



第 51 回（2026 年度）教育システム情報学会全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内

教育システム情報学会 全国大会委員会
委員長 國宗 永佳

企画セッションは参加者にとって関心が高く、より詳細な研究テーマに焦点をあてたセッションです。以下のようにテーマを公募いたします。奮ってご応募ください。テーマが採用された方はオーガナイザになっていただき、発表募集の広報やプログラム作成、セッションの実施を行っていただきます。なお、お申し込みいただいた内容にしたがって全国大会委員会プログラム部会で審査をし、採否を決定させていただきますので、ご了承ください。

企画セッションの講演原稿のフォーマット、投稿方法、1 スロットあたりの発表数（3～4 件の発表で構成）、講演時間等は一般セッションと同じです。ただし、オーガナイザの裁量で 1 スロットにつき講演 1 件分を議論の時間にあてることができます（3 件の発表＋議論とすることができます）。セッションの時間帯やスロット数は、大会プログラム作成時に全国大会委員会大会プログラム部会にて講演申し込み数や全国大会全体の構成に応じて決定いたします。講演申し込みは大会 Web の講演申し込みサイトより、一般から公募いたします。また、企画セッションでの発表も大会奨励賞の対象となります。

企画セッションのテーマは一般セッションよりも特化したテーマに焦点があてられていることが望まれます。テーマご提案の際には、一般セッション講演募集用のカテゴリ表を参考にしてください。

■オーガナイザにご担当いただく事項

- 発表募集の広報（企画セッションの概要は全国大会 Web ページに掲載されます）
- 企画セッションのプログラム（発表順）の決定
発表申し込み数によっては、一部の発表を一般セッションに移動する必要があります。
その際、オーガナイザには一般セッションに移動する発表を決定していただきます。
- 座長の選定
原則としてオーガナイザが座長をご担当ください。セッションが複数になった場合は、各セッションの座長を異なるオーガナイザで担当していただきます。
- 当日のセッション運営

■お申し込み方法

以下の項目をご記入の上、全国大会委員会プログラム部会（taikai-pc-ml@jsise.org）宛まで電子メールにてお申し込みください。

※送信後に投稿が保留された旨のメールが自動的に届きます。それとは別に後日受付の連絡をさせていただきますので、お待ちください。

- テーマ（企画セッション名）
- 概要（400 文字程度）
- テーマが該当するカテゴリ、分野（カテゴリ表より選択、多くて 2～3 個を目安としてください）
- テーマが該当するキーワード（カテゴリ表中のキーワード）

- テーマ独自のキーワード
 - オーガナイザ全員の氏名と所属、代表者の連絡先（電子メールアドレスなど）
- ※オーガナイザは教育システム情報学会会員に限りです。

■申込期限

2026年2月13日（金）（2026年2月20日（金）までに採択結果を通知いたします）

《カテゴリ表》

議論観点	カテゴリ	分野名 (発表時にはここだけ選択してもらいます プログラム編成においてセッション名として使います)	キーワード (分野選択時の参考にしてください。 ただし、各分野の発表はこれらに限るものではありません)
支援対象	設計	授業設計・インストラクショナルデザイン	授業研究、学習理論、教育方法、カリキュラム・デザイン、授業評価、授業実践、シラバス、研修設計、動機づけ
		学習環境デザイン	デザイン研究、学習科学
	教育・学習手法	遠隔教育	通信教育、国際交流、交流学習、異文化交流、オンライン授業
		フレンドリー学習	反転授業、eラーニング授業利用
		連携型教育	小中連携、中高連携、高大連携、大学間連携、科目間連携、地域連携、産学連携
		協調学習	コミュニティ支援、コミュニケーション支援、グループ学習、ディスカッション支援
		アクティブラーニング	作問学習、PBL、クリッカー、アイデアソン、ハッカソン、ルーブリック、サービスラーニング、テキストコミュニケーション、社会人基礎力、反転授業、体験学習
	分析・評価	学習者特性・行動分析	ポートフォリオ、アフェクティブラーニング、質的分析、学習履歴分析、レディネス、生体情報、レスポンス分析、教学インスティテュショナル・リサーチ(IR)、質問行動、尺度開発
		学習評価・アセスメント	リフレクション、ルーブリック、テスト理論、質的評価、適応型テスト、数理モデル、ピアアセスメント、グループワーク評価、パフォーマンス評価、項目反応理論、所見による評価
	対象別教育	HRD・生涯学習	リカレント教育、社会人教育、企業内教育/研修、異文化理解、リススキリング
		高等教育	キャリア教育、質保証、リメディアル、初年次教育、ファカルティ・ディベロップメント(FD)、研究活動支援、ティーチングポートフォリオ、チュータートレーニング、教養教育、教職課程
		初等中等教育	言語活動、教科指導、授業実践、教師教育、情報モラル、一人一台タブレット環境
	領域別教育	プログラミング教育	アルゴリズム理解、ビジュアルプログラミング、プログラミング言語教育、オブジェクト指向教育、ロボットプログラミング、WebAPI、プログラミング的思考
		情報技術教育	ネットワーク教育、データベース教育、組み込みシステム教育、モデリング教育、システム要件定義、技術者倫理教育、ソフトウェア開発教育、IoT
		語学教育	日本語学習、外国語学習、聴解学習、発話学習、作文教育、読解教育、語彙・単語学習、文法教育、エッセイライティング、例文検索、言語学習動機づけ戦略、没入型言語学習環境
		教科教育	教科情報、数学、国語、理科、社会、音楽、美術、技術・家庭科
		特別支援教育	インクルーシブ教育、LD、ADHD、発達障害、院内学級、身体障害、知的障害、視覚障害、言語障害
		スキル学習	身体知、経験知、学習スキル、メタ認知、問題解決支援、批判的思考、自己調整学習
		医療・看護・福祉教育	カウンセリング、ボランティア、介護、理学療法、保育、作業療法、スポーツ医学
		情報リテラシー	プレゼンテーション支援、コンピュータ操作、情報倫理、セキュリティ、情報モラル、情報スキル、クラウドサービス活用
		防災教育	レジリエンス、リスクマネジメント、災害情報、意思決定、災害心理、疑似体験、避難訓練、災害アーカイブ
			映像・音声配信／収録／活用、電子教科書、電子黒板、プレゼンテーションドキュメント
技術	ICT活用	マルチメディア活用	ソーシャルブックマーク、SNS、BLOG、マイクロBLOG、チャット
		ソーシャルメディア活用	モバイル、タブレット、ユビキタス、ウェアラブル、ヒューマノイドロボット、IoT
		デバイス活用	LMS、eポートフォリオ、CMS、テレビ会議システム、コンテンツ共有
	技術開発・運用	プラットフォーム活用	LMS、CMS、プラグイン、CSCL、eポートフォリオ、eテスト、API、データフォーマット、デバイス、テレビ会議システム、クラウド利用
		プラットフォーム開発	認証、ネットワーク構築、センサネットワーク、クラウド、セキュリティ、システム連携、仮想化、データ運用管理、教材データベース、BYOD、学業記録ブロックチェーン
		インフラストラクチャ	コンテンツ・オーサリング、カリキュラム・オーサリング、コンテンツ自動生成、SCORM、LOM、問題作成支援
	先進的学習支援技術	コンテンツ作成支援	認証、ネットワーク構築、センサネットワーク、クラウド、セキュリティ、システム連携、仮想化、データ運用管理、教材データベース、BYOD、学業記録ブロックチェーン
		先進的学習支援	AI(人工知能)、アフェクティブコンピューティング、エージェント、機械学習、情報検索、適応的支援、ナビゲーション支援、リフレクション支援、情報推薦、ゲーミフィケーション、外在化支援、抽象化支援、知識マップ、生成AI、教育用デジタルツイン
		分析技術	テスト理論、データマイニング、ラーニングアナリティクス、ビッグデータ
		モデリング技術	メタ認知、学習科学、学習者モデル、教授モデル、認知ツール、数理モデル、ドメインモデリング、認知モデリング
		ユーザインタフェース	仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、複合現実(MR)、HCI、視線入力、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)、ジェスチャー入力、3D、可視化、センサデバイス、音声入力、シミュレーション、マイクロワールド、擬人化技術、アウェアネス、テレプレゼンテーション、力覚情報、ヒューマノイドロボット、ユーザインタフェースデザイン、ユーザビリティ評価、ユーザ経験(UX)
その他	その他	その他	



2027 年度発刊 特集論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

Vol. 44, No. 2 学会誌 特集「**これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析**」

論文投稿締切：2026 年 6 月 1 日(月)（予定）

2027 年 4 月 1 日 発行（予定）

古典的な学習の場である教室での対面一斉授業から離れた「場所・時間によらない学び」や、問題解決スキルや批判的思考スキルの涵養といった「知識伝達に留まらない学び」など、多様な学習機会の提供に目掛けた教育・学習支援システムの開発が進んでいます。それらは、遠隔ライブ授業、オンデマンド動画授業、モバイルラーニング、eラーニングなどをベースとしつつ、インストラクショナルデザインに基づいた設計や、ラーニングアナリティクス、AI を活用したパーソナライズなど多種多様な工夫によって成り立っています。

これらをふまえ、本特集論文では、これからの学習を生み出す多種多様な工夫に視点を当て、さまざまな学習機会を提供する学習支援システム、それらのシステム設計、効果的な活用方法、そのシステムの裏にある学習デザイン、システム利用者の学習分析などについての論文を幅広く募集します。

1. 対象分野

古典的な学習の場から離れた学びを提供することに関連する学習システムの設計、学習システムの効果的な活用方法、学習システム利用者の学習分析、その他様々な観点において、これからの学習を生み出すことにつながる論文を幅広く募集します。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web サイト上の「学会誌投稿のご案内」でご確認ください。投稿に際しては「特集」であることを明示していただきます。また、特集論文研究会（2026 年 3 月中旬開催予定）で発表を行った方は、特集論文研究会での発表題目と発表番号も明示いただく予定としております。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2026 年 6 月 1 日(月)【予定】

採録通知予定： 2026 年 12 月初旬まで【予定】

学会誌 掲載： 学会誌 Vol. 44, No. 2, 2027 年 4 月 1 日発行【予定】

5. 特集論文研究会について

本特集と同一テーマの研究会「特集論文研究会（第 6 回研究会との共同開催）」を以下の通り開催します。希望者には、本特集への論文投稿のための閲読も行います。本特集への投稿をお考えの方は、是非ご検討ください。

詳細は、第 6 回研究会／特集論文研究会の Web ページをご覧ください。

(https://www.jsise.org/research_society/2025_cfp_6th/)

《特集論文研究会の日程等》

開催日時： 2026 年 3 月 15 日（日）・16 日（月）（第 6 回研究会と同時開催）

開催場所： 静岡産業大学 藤枝駅前キャンパス（Bivi キャン）

発表申込締切： 2026 年 1 月 23 日（金）

原稿提出締切： 2026 年 2 月 12 日（木）

《特集論文研究会における閲読コメントについて》

特集論文研究会ではご希望の発表者に対して論文投稿に向けてご参考頂く閲読コメントをお渡ししております。閲読コメントをご希望頂いた場合は、原稿ファイルアップ時に、論文の要点と論文の意義として学会誌原稿執筆要領第 2 項の投稿論文の各種別における、新規性、有用性、信頼性の観点に照らした論文の主張点を、投稿システム上のフォームに入力して頂く必要があります。また、通常より長めの 20 分の質疑応答時間が割り当てられます。

6. 特集論文編集委員会

委員長： 後藤田 中（香川大学）

副委員長： 高木 正則（電気通信大学）

筆頭幹事： 山元 翔（近畿大学）

幹事： 白澤 秀剛（東海大学）、近藤 伸彦（東京都立大学）、
林 佑樹（大阪公立大学）、宮澤 芳光（独立行政法人大学入試センター）

幹事補佐： 油谷 知岐（大阪公立大学）、吉原 和明（近畿大学）

委員： 学会誌編集委員

7. 問い合わせ

全般： 白澤 秀剛（東海大学） E-mail: sirasawa@tokai.ac.jp



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

学会誌のコミュニティ・プラザ「博士論文紹介」では、博士号取得者による研究テーマを広く紹介することで、分野内の博士号取得者の研究動向を読者の皆様にお伝えしています。また、複数の研究者の紹介を一同に掲載することで、博士号取得者同士の相互理解や交流のきっかけにもなることを目指しています。本記事は毎年7月1日発行のNo.3に掲載され、投稿の募集は年度末から新年度初め（3～4月頃）にかけて、学会誌やニュース・レターを通じてご案内しています。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニュース・レターなどを通じて、募集いたします。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃるいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2026年7月1日発行予定となります学会誌Vol. 43, No. 3につきましては、【2026年4月17日(金)】を原稿締切の予定とし、募集いたします。

執筆に際しては、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートをご利用ください。原稿および必要事項の提出に関してはGoogle フォームを用いて受け付けます。下記 URL よりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2026年4月17日(金)（予定）

学会誌掲載： 学会誌Vol. 43, No. 3, 2026年7月1日発行（予定）

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：

https://docs.google.com/uc?export=download&id=1ncrIREcS_hf_2cjlCPhuI0GZV1ag47aF

原稿提出（Googleフォーム）：

<https://forms.gle/2qpeXo5vAbFYjGsk6>

問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 宮澤 芳光（大学入試センター）

E-mail: miyazawa@rd.dnc.ac.jp

（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>）への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/list/-char/ja>)。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）。
 - 評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。

最新号目次

Information and Technology in Education and Learning (ITEL) Vol.5, No.1 2025

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/>

Editorial	Preface to Volume 5: Practices, Issues, and the Future of Generative AI in Education and Learning H. Oura and H. Kunichika
Invited Paper	Generative AI in Foreign Language Learning and Teaching: A Summary and Insights from Our Empirical Investigations A. Mizumoto
	Ethical, Legal and Social Issues in the Educational Use of Generative AI A. Kishimoto
	Transforming Education with Generative AI: Designing for the Post-Prompting Era L. Wong
Regular Paper	Usage of Junior High School English Digital Textbooks Based on Operation Logs and Its Influence on Learning Performances Y. Miyanishi, T. Nagahama, S. Nakagawa, and T. Horita
Practice Paper	Investigating the Use of a Web-based Application on Geometric Proof Understanding: A Study of Individual and Small-Group Learning in Junior High School S. Hamada, X. Geng, L. Chen, and M. Yamada
Short Paper	A Consideration of Potential Utilization of Virtual Student Avatars in Discussion Process in Small Class of Junior High School K. Kobayashi, T. Mukai, T. Yasunaga, and S. Shiota
Translation	Clarification of Eye-Tracking Patterns and Related Practical Thinking Styles of Teachers in the Classroom: A Case Study Using a Subjective Camera K. Himeno
	Relationship Between Changes in Classroom Practice and Beliefs about Teaching of Novice Faculty: A Longitudinal Study for Participants in a PFF Program Designed to Support the Introduction of Active Learning Y. Kozai, M. Taguchi

注：Translation は、日本教育工学会論文誌に掲載された論文の一部を英訳したものです。



2025 年度第 4 回研究会 開催報告

担当者：曾我真人，長谷川忍，松浦健二，柏原昭博，後藤充裕，小尻智子，林勇吾

■テーマ：AI 時代における学習支援システムとデザイン

■開催日時：2025 年 11 月 16 日（日）

■開催場所：大阪公立大学 Isite なんば

■発表件数・参加者：22 件・56 名

■概要：

2025 年度の JSISE 第 4 回研究会は、大阪公立大学が南海難波付近で運営する Isite なんばで開催されました。研究会テーマは、昨年度に引き続き「AI 時代における学習支援システムとデザイン」で、研究会テーマ発表が 11 件、一般発表が 11 件で、合計 22 件の発表が行われ、2 部屋で並行に開催されました。ハイブリッドで開催されましたが、発表者は全員、オンサイトでの発表でした。北海道から九州まで、全国各地から 56 名の参加者があり、大半の参加者はオンサイトでの参加で、オンラインの聴講者は一桁だったようです。第 4 回研究会では、22 件の発表件数は、これまでで最多と思われます。

ハイブリッド開催のため、オンサイトの発表者であっても zoom で PPT を共有化する必要があり、発表の開始時に時間がとられる場面もありましたが、会場の参加者の支援もあり、おおむね問題なく進行することができました。

発表内容は、テーマ発表では、AI の動作スキルの学習支援への応用、画像生成 AI による誤りの気づき支援、生成 AI の多言語翻訳機能を利用した日本語教育への応用、生成 AI のヘルスケアへの応用、生成 AI の模擬授業評価への応用などがありました。一方、一般発表では、新入社員研修の日報フィードバック AI エージェント、ヘルスケア、キャリア教育支援、講義ロボットの表出とエンゲージメントへの影響の分析などの研究発表があり、いずれも、活発な議論が行われました。

生成 AI が普及して数年がたち、様々な応用が展開されてきていることがわかる内容でした。また、今後の AI の新しい応用のヒントが得られる研究会でもありました。

■発表タイトル：

研究会テーマ発表

- ・バトミントンにおける素振りフォーム改善支援システムの開発
- ・ハンドトラッキング技術を用いた複合現実型仮想化学実験環境
- ・QFD・TRIZ・田口メソッド統合学習のための AI 支援教育システム
- ・画像生成 AI を活用した英語学習支援システムの開発 ～語順整序問題に着目して～
- ・生成 AI を活用した学習環境基盤としての リアルタイム多言語翻訳システムの開発
- ・大規模言語モデルによるディベート学習支援システムの構築と検証

- ・大学生の口腔衛生意識向上を目的とした LINE チャットボットの開発と評価
- ・Generative AI を用いた在日中国語圏外国人における歯垢ケアに関する研究
- ・生成 AI を用いた教職課程学生を対象とした模擬授業評価システムの有効性評価
- ・複数の行動的特徴の統合によるオンライン学習における集中状態推定
- ・実在の 3D 空間モデルと生成 AI（RAG）環境を組み合わせた能動的学修支援教材の設計と検討

一般発表

- ・新入社員研修における日報フィードバック AI エージェント「NobiX(ノビックス)」の導入効果
- ・経験と科学の円のなかでの自己内対話：思考のスペクトラムと霊性的メタ認知
- ・自動車修理業における日報型指導者支援システムの構築
- ・VDT 症候群を予防する瞬き・姿勢検出に基づく疲労推定とフィードバックシステムの開発
- ・学習習慣は学習目標と関連するのか - 中学生の学習ログを用いた分析 -
- ・学生アシスタントの業務報告提出を支援する LINE チャットボットの設計と実装
- ・学習をキャリアデザインに結びつける Web 学習ツールの試作とその効果
- ・安心への 3 つのアプローチを用いたキャリア教育の授業設計
- ・グループワーク演習での TA 机間指導支援システムにおける文字起こし精度と情報提示方法の改善
- ・講義ロボットの外向性の表出が講義に対するエンゲージメントに与える影響
- ・オンライン試験における低負荷な不正行為検出システムに関する研究



2026 年度からの研究会について

研究会委員会

第 50 回（2025 年度）全国大会でお知らせしたとおり，より魅力のある研究会の実現に向けて，2026 年度から研究会の実施体制を変更します．ご自身の研究発表や交流の場として，今後とも研究会をぜひご活用ください．

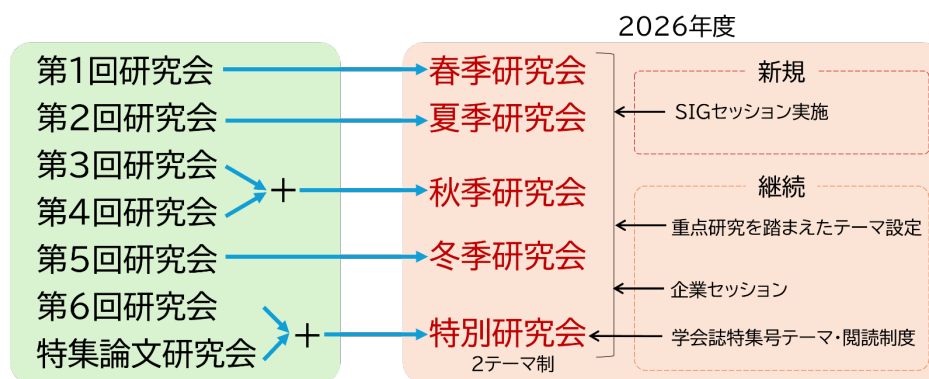
1. 開催回数と区分の変更

- 年間 5 回開催に変更します（従来は年間 7 回）
- 区分を春季・夏季・秋季・冬季・特別の 5 つに再編します
 - 春季研究会（4～5 月中の開催を予定）
 - 夏季研究会（6～7 月中の開催を予定）
 - 秋季研究会（10～11 月中の開催を予定）
 - 冬季研究会（12～1 月中の開催を予定）
 - 特別研究会（2～3 月中の開催を予定）
- 従来の第 3 回と第 4 回研究会を統合し，秋季大会とします．全国大会の時期を踏まえ，研究発表・聴講のスケジュールを調整しやすくします．
- 従来の第 6 回研究会と特集論文研究会を統合し，特別研究会とします．特別研究会では 2 つのテーマを設け，そのうち 1 つは従来の特集論文研究会と同様に学会誌特集号のテーマとし，閲読制度も継続します．投稿・参加申込システムを統合することで，投稿・参加の利便性を高めます．

2. 他委員会との連携強化

- 学会誌編集委員会：学会誌特集号テーマ・閲読制度の継続（論文誌掲載へのステップアップの支援）
- 重点研究推進委員会：重点研究を踏まえたテーマ設定の継続（時代に即した研究の把握・理解の促進）
- 産学連携委員会：企業セッションの継続（企業との出会い・コラボレーションの創出）
- 研究活性化委員会：SIG セッションの実施（研究発表機会の増加，新しい研究領域の把握）

年間の開催回数は 5 回となりますが，他委員会との連携強化によって，研究会の内容を充実させ，参加者体験の向上に努めます．教育システム情報学の広さと深さをより実感できる研究会を目指します．



3. 研究会報告購入費の改定（非会員のみ）

改定前		改定後	
会員種別	研究会報告購入費	会員種別	研究会報告購入費
会員 (すべての種別)	1,000 円	会員 (すべての種別)	1,000 円
非会員（一般）	1,000 円	非会員（一般）	2,000 円
非会員（学生）	1,000 円	非会員（学生）	1,500 円

※年間購読料は 4,000 円のまま変更ありません。

近年、会場費や人件費の高騰より、研究会運営に必要な費用が増加しております。今後も魅力ある研究会の運営に努めてまいりますので、本改定につきましてご理解を賜りますようお願い申し上げます。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000 円（定例研究会 4 回、特別研究会 1 回、計 5 回分を含む）
- ・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

関東支部より活動報告



第7回リサーチ・コ・コ・コモンズ開催報告

担当者： 教育システム情報学会関東支部

関東支部では、連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を、2025年12月6日（土）に品川区立総合区民会館きゅりあんにて開催致しました。第7回となる今回は、昨年の第6回と同様に「自身の研究の魅力を再発見する」ために「良い点」を積極的に褒めていくという形式に「リサーチクエスチョンを説明する」という要素を取り入れたテーマで開催し、関東地区・北海道地区から15名（学生10名・教員5名）の参加がありました。

第1部「ベテラン研究者からのメッセージ」では、基調講演として電気通信大学の松木利憲先生に「研究生活で得られること・失うこと」というタイトルでご講演いただきました。外資系企業およびスタートアップ企業等におけるコンサルタントやキャリアカウンセラー、そして多くの大学や専門学校でキャリア教育を実施されてきたご経験から、大学における研究において得られるものとして単に知識と捉えるのではなく経験や汎用的スキルを獲得する過程と考える必要があること、自身が取り組んでいる研究が他の研究や社会に与えるベネフィットを言語化することの重要性などについてお話しいただきました。

第2部では「魅力 Aware / Share / Deeper セッション」と題して、参加学生による3セッション合計10件の研究紹介が行われ、それぞれの研究の良い点、発表者本人も気付かないと思われる発展や応用の方向性について、積極的な議論がなされました。通常の研究会とは異なる「褒めて（研究を）伸ばす」、「褒めて（自分自身が）伸びる」というコンセプトの下での議論に、参加者一同が苦戦しつつも、ポジティブな雰囲気の中セッションが進行しました。さらに、前回から導入されたリサーチクエスチョンを説明してもらう取り組みについても、普段以上に自身の研究を認識する良い機会になったように思います。また、席上でのご意見もそれ以外のご意見も、「研究について面白い点」「発表者も気づいてないであろう発展性」「その他」の項目に分けられ、後日、コメントシートという形で全ての発表者にフィードバックされました。

なお、今回は電子情報通信学会 教育工学研究会（ET 研究会）と同日・同会場での開催とし、第1部は合同企画として実施しました。



第1部の様子



第2部の様子

今回、ご講演・ご発表いただきました皆さま、及びご参加いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。今後も関東支部では、学生の育成および教育実践の現場との連携を視野に入れた学術イベントの企画実施を進めていきたいと考えております。

コメントシートの記述（一部抜粋）

Q1 この研究について面白い点と思った点は？

(A1-1) 人が自然と身に着けていると思われる、複雑な感情表現を読み取る能力を向上させようとしているところが、今までにない面白い研究だと感じました。「ロボットに感情があると人間が認識する」という前提も面白いと感じました。

(A1-2) コミュニケーション力の育成のために、質問力に着目しているところが面白かった。人間同士、人間と AI のコミュニケーションの違いについても検証できるので、質問力以外のコミュニケーション能力の AI を用いた育成方法にも応用できると思った。

(A2-2) 汎用的なモデルを実社会に適用することは難しいと考えますが、災害時の避難の支援という具体的な解決したい問題がすでにあるところが面白いと思いました。

Q2 発表者本人も気付いていないであろう、この研究の発展・応用の方向性や可能性はありますか？

(A1-3) 勝負の文脈のみではなく、テストでいい点が取れなかった時などに、自分の努力不足だったと考えるか、テストの問題が難しかったからしょうがないと考えるかでその人がどう成長するかが変わらと思うので、そういうところを支援できたら素晴らしい研究になると思いました。

(A2-3) 面接に限らず、人間関係における印象形成や第一印象によるバイアスの除去など幅広いコミュニケーションの場面に適用できそうだと感じました。

(A3-1) 習熟度に合わせたロボットロールで学習効果が変わるため、学習者に合わせた最適なロボットデザインができるといった。今回の実験結果を活かした応用の幅が広いと、今後の研究も幅広いと思った。

(A3-3) 批判的思考の育成のために生成 AI とのやり取りが役に立つという発想は新しく、対極の視点を考えるということは、研究においても、企業においても求められる能力だと思うので、それを育成できることは教育的価値が非常に高い生成 AI の使い方だと思いますし、本研究の社会的な意義は大きいと思います。

Q3 その他の質問・コメント

(A2-1) 発表ありがとうございました！自分も Chat-GPT で英語学習しているため、とても興味があるし、システムができたらぜひ使いたいと思いました。

(A2-4) Wikipedia なんかに読んでみると、あれもこれも興味を感じたリンクに飛んで調べているうちに、最初に何を調べていたのか忘れてしまうことがある。調べが脱線しないようにすることって必要かも。

(A3-2) アイデンティティの形成は思春期にほとんどされると思っていたので、何歳になってもアイデンティティの形成が起こることは考えていなかったです。新しい気づきが得られました。

【開催プログラム】

◇第1部：ベテラン研究者からのメッセージ

- ・基調講演：松木 利憲 先生（電気通信大学）「研究生活で得られること・失うこと」

◇第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

(A1-1) ロボットの非言語動作オーサリングによる複合的感情表現の読み取り支援

権田夏実（電気通信大学 柏原研究室）

(A1-2) 生成 AI を用いて二者間会話における信頼関係の構築を目的とした質問力育成支援

阿部颯斗（早稲田大学 松居研究室）

(A1-3) 将棋における対戦相手ロボットの実力表出制御によるリフレクション促進

高桑奏太（電気通信大学 柏原研究室）

(A2-1) 文章生成 AI を活用した英語コミュニケーション学習支援環境の構築

吉岡翔太（函館工業高等専門学校 倉山研究室）

(A2-2) 行政保健師のためのインシデントコマンドシステムの学習モデル構築と検証

島崎遥（電気通信大学 柏原研究室）

(A2-3) 受検者と評価者の双方に由来するハロー効果を考慮したベイジアン多相項目反応モデル

北風陵汰（電気通信大学 宇都研究室）

(A2-4) 生成 AI を用いた意外性情報提示による情報探究のエンゲージメント促進支援

鈴木音羽（電気通信大学 柏原研究室）

(A3-1) 英会話ロボットのロールが異なる習熟度の学習者に与える効果

羽切亜美（電気通信大学 柏原研究室）

(A3-2) ナラティブな行いによるアイデンティティ変容プロセスのモデル構築

榎本尚輝（早稲田大学 松居研究室）

(A3-3) Web 調べ学習における生成 AI を用いた批判的思考の促進

仁科連（電気通信大学 柏原研究室）

以上

広報からのお知らせ



ニュース・レター発行回数変更のお知らせ

2024 年度より，ニュース・レターの発行は年 4 回となります．研究会の開催時期と異なるため，今後は，年間スケジュールおよび開催報告のみの掲載となります．開催案内と講演募集につきましては，学会 Web サイトでご確認ください．



X (Twitter) アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より，全国大会開催に合わせて学会の公式 X (Twitter) アカウントを開設しました．本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております．本学会へのご質問・お問い合わせは，学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします．

<https://twitter.com/JsisePr>



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています．本ページでは，論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています．ぜひ，ご覧下さい．

Facebook ユーザの方は，ぜひ，「いいね」をお願いいたします．

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

X (Twitter)，Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局（secretariat@jsise.org）までお問い合わせください．



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

後援：「第3回シンポジウム：デジタル社会における働き方（ワーク・エンゲイジメント）」

日時：2026年3月6日（金）13:00～16:25

会場：九州大学 西新プラザ（ハイブリッド形式）

後援：「九州大学人社系協働研究・教育コモンズシンポジウム」

日時：2026年2月10日 14:00-17:00

会場：九州大学 伊都キャンパス イースト2号館 E-C-203（ハイブリッド形式）

後援：「情報メディア教育研究センターシンポジウム 2026」

日時：2026年3月3日（火）13:30-17:00

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S306

後援：「九州大学データ駆動イノベーション推進本部スマートラーニングデザイン研究ユニット・福岡市教育委員会合同シンポジウム」

日時：2026年6月26日（木）13:00～16:00

会場：九州大学 西新プラザ 大会議室（ハイブリッド形式）



会費改定のお知らせ

日頃より、会員みなさまにおかれましては、学会の事業活動の運営や維持にご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

現状の教育システム情報学会の会費は、1995年に「CAI学会」から名称の変更が行われたときより、30年間据え置きとなっております。しかしながら、全国的なコスト高の影響が学会会計にも及んでおり、事業を維持するための業務フローの改善やDXなどでの費用の圧縮に限界がきております。また、本学会の会員数についても「これまでの学会事業の維持」だけでは緩やかに減少していくことが見込まれ、5年後、10年後を見据えますと、学会の規模が縮小してしまう可能性が高くなっております。

このような背景のもと、「学会事業における新規の取り組みや事業間の連携などを行い、魅力的な学会事業を展開・発信していくことで、入会される方々を増やしていくこと」「今後も続くであろう価格・コスト高の傾向に対しても、学会事業を滞りなく進めていける財務の基盤を固めること」を目的として、2026年度より下記のとおり会費の改定（正会員の会費のみ1500円値上げ）を行います。

改定前		改定後	
会員種別	会費	会員種別	会費
正会員	7,000 円(不課税)	正会員	8,500 円 (不課税)
学生会員	4,000 円(不課税)	学生会員	4,000 円(不課税)
賛助会員	50,000 円(1 口以上, 不課税)	賛助会員	50,000 円(1 口以上, 不課税)
入会金は正会員初年度のみ 1,000 円(不課税) 研究報告の年間購読料は 4,000 円(課税)		入会金は正会員初年度のみ 1,000 円(不課税) 研究報告の年間購読料は 4,000 円(課税)	

この価格改定につきましては11月15日（土）に開催されました臨時社員総会にてご審議をいただき、ご了承を得ております。

2026年度の会費納入において上記の価格改定の通り、会費請求のご案内をいたします。会員の皆様におかれましては、誠に恐縮に存じますが、事情ご賢察賜りまして、ご理解いただきますよう謹んでお願い申し上げます。



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料**にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の 9 名の皆様が新しく入会されました。(2025 年 9 月 26 日～2025 年 12 月 24 日)

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
赤松 健臣	正会員	中野 明	正会員
本多 尚登	正会員	熊谷 健二	正会員
土屋 萌	学生会員	中山 玲那	正会員
加藤 司	正会員	石切山 大	学生会員
藤澤 弘美子	正会員		